

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査目的

全国的な子どもの体力の状況を把握・分析し、体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査概要

(1) 調査対象

小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒

(2) 児童生徒に対する調査

○児童生徒に対する調査

・実技に関する調査（8種目）

【小学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ソフトボール投げ、20mシャトルラン

【中学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ハンドボール投げ、20mシャトルラン（中学校は持久走も可とされているが、福岡市は持久走なし）

・質問紙調査（運動習慣・生活習慣、食習慣等）

○学校に対する調査

・質問紙調査（子どもの体力向上に係る取組み等）

(3) 調査期間

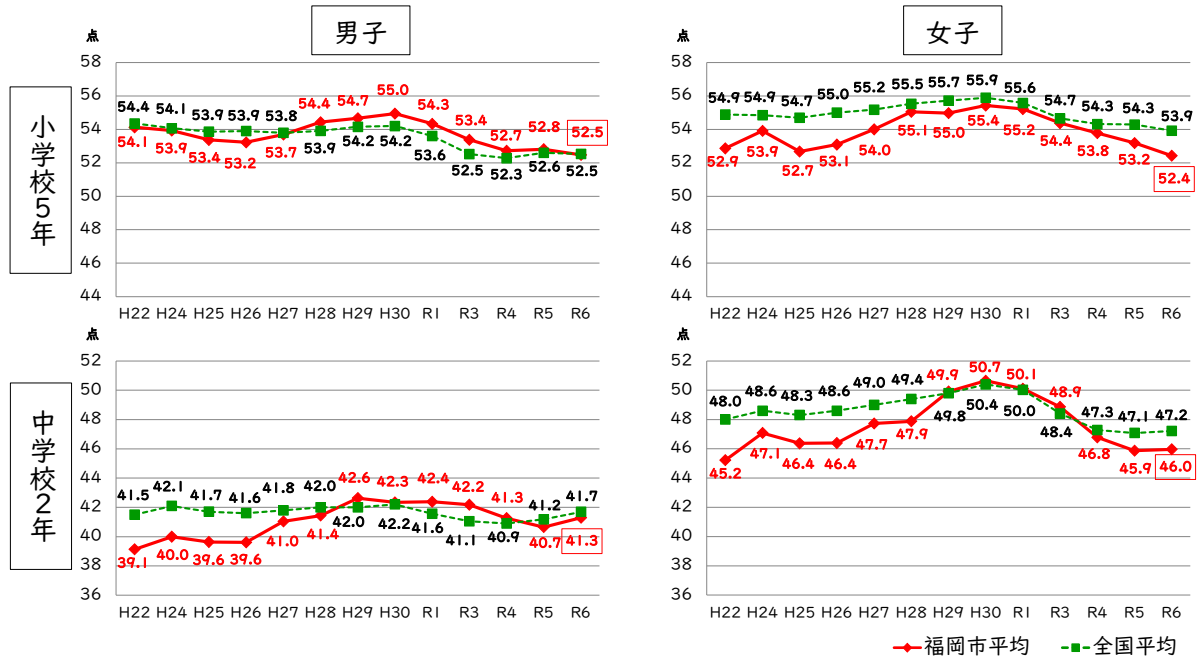
令和6年4月から7月まで

3 調査結果の概要について

(1) 実技に関する調査結果について

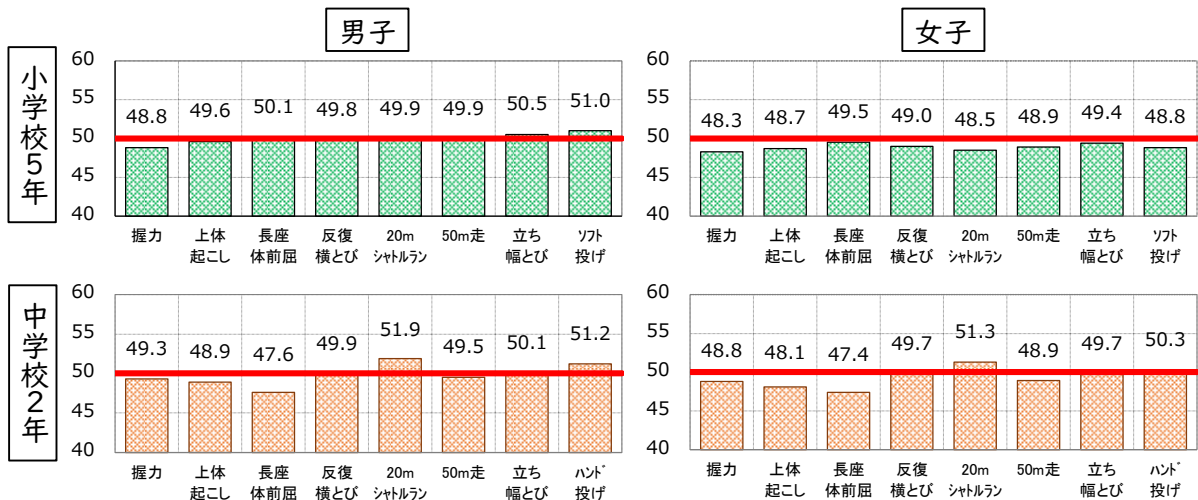
① 体力合計点の推移

※ 体力合計点とは、8 項目の実技テストの結果をそれぞれ 10 点満点に変換し、合計したもの。得点基準は男女で異なる。



※ 平成 22 年度、24 年度は抽出調査（小学校 35 校、中学 19 校）、平成 23 年度、令和 2 年度は調査中止

② 種目別の全国との比較



< 体力合計点 >

- ・全国平均と比べ、小中ともに男子が全国と同程度であり、女子は下回っている。
- ・全体的には横ばい、もしくは上昇傾向だが、小 5 女子は低下が続いている。

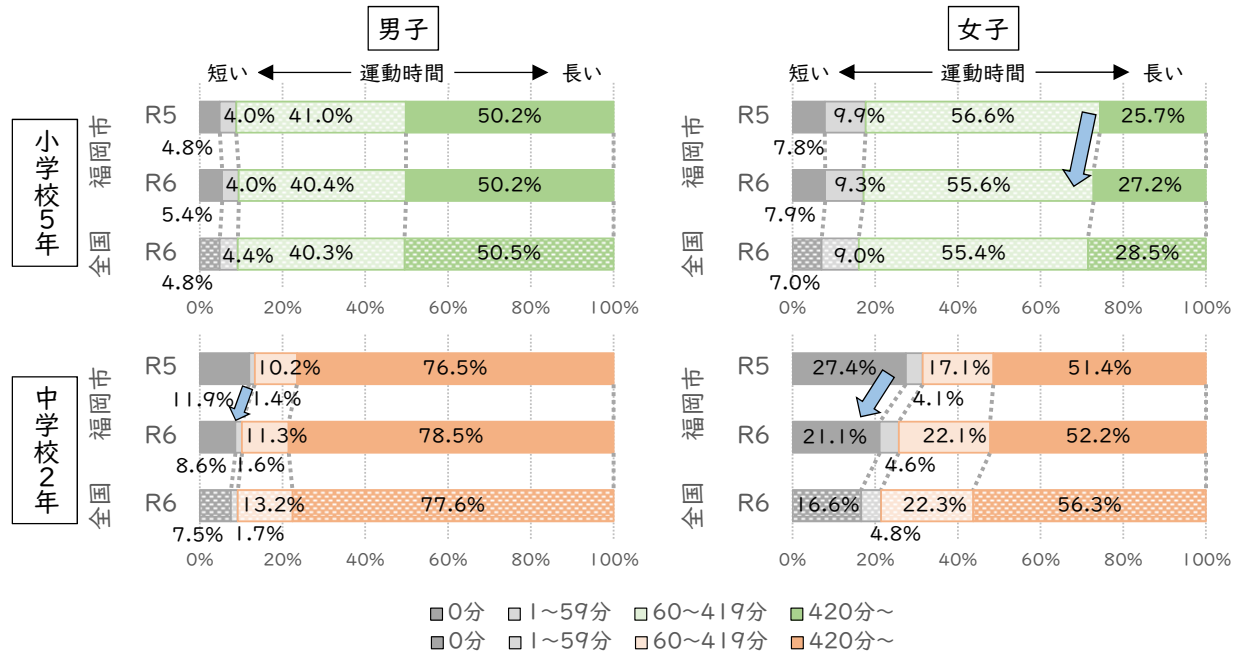
< 種目別 >

- ・小 5 男子では、ソフトボール投げなど 3 種目で全国平均を上回り、小 5 女子では、各種目、全国平均を下回っている。
- ・中 2 男子では、20m シャトルランとハンドボール投げなど 3 種目で全国平均を上回り、中 2 女子では、20m シャトルランとハンドボール投げで全国平均を上回っている。

(2) 運動習慣、生活習慣について

① 1週間の運動時間の推移

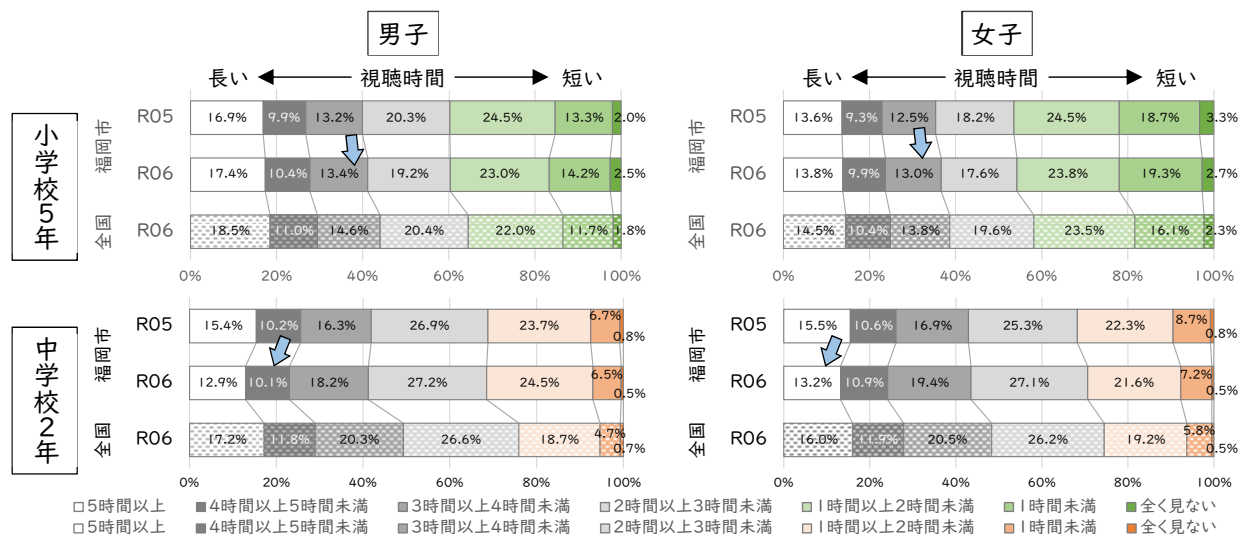
「体育の授業以外で、運動やスポーツをどれくらいしていますか。（体を動かす遊び、部活動、地域のスポーツクラブの時間を含む）」（児童生徒質問紙の結果より）



- ・一週間の運動時間は、令和5年度と比べ、小5男子では、ほぼ同程度の割合で変化はないが、中2男女では60分以上運動する割合が増加しており、小5女子では、420分以上運動している割合が増加している。

② スクリーンタイム（平日の視聴時間）の推移

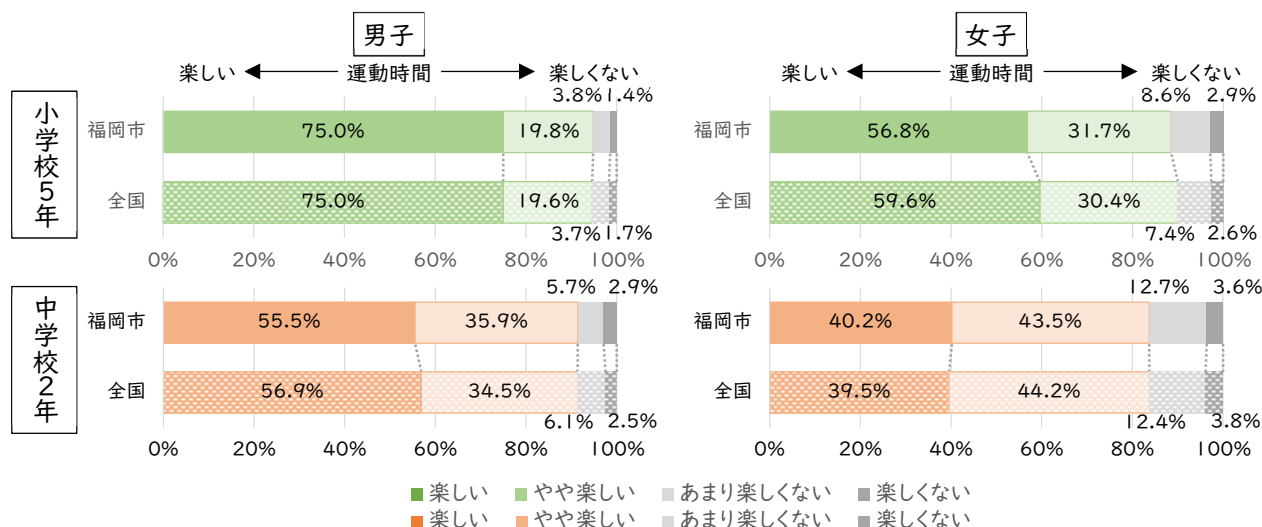
「学習以外で1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面をみていますか。」（児童生徒質問紙の結果より）



- ・スクリーンタイムについて、小5男女では、3時間以上している割合が増加しており、中2男子では、4時間以上視聴している割合が、中2女子では、5時間以上視聴している割合が減少している。
- ・小5、中2ともに、全国平均と比べ、視聴時間は短い。

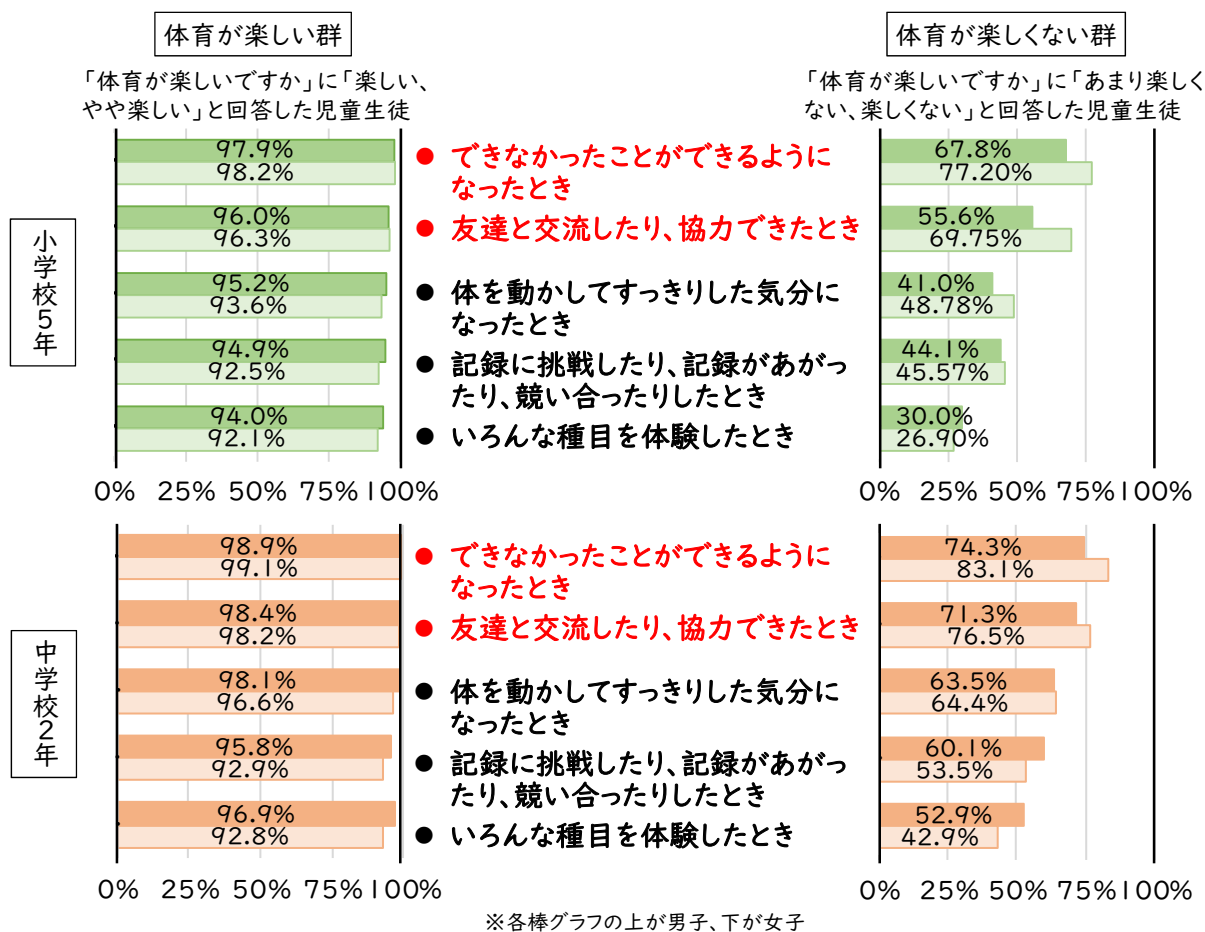
(3) 子どもの体育の授業に対する考え方について

①体育の授業は楽しいですか？（児童生徒質問紙の結果より）



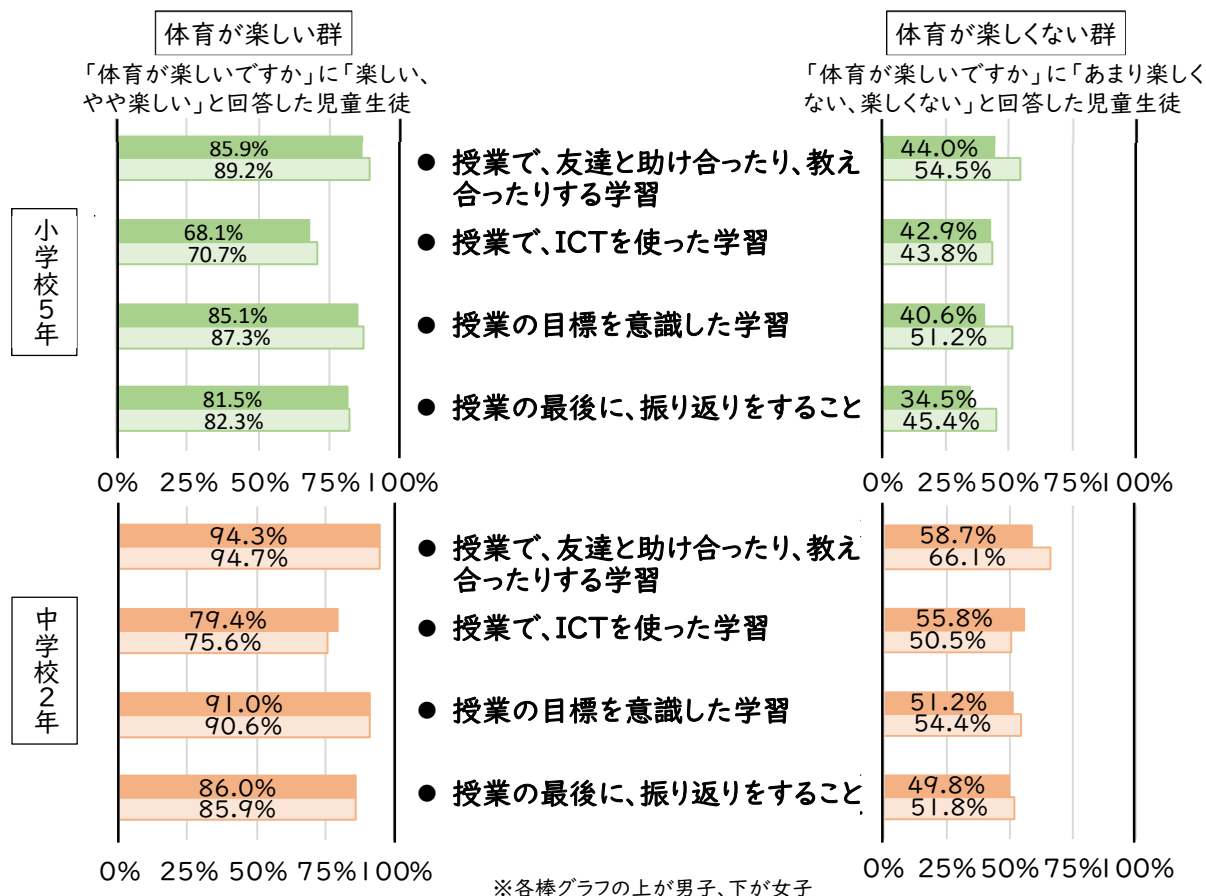
- ・「楽しい、やや楽しい」回答が高く、全国と同程度の割合である。
- ・小学校、中学校ともに男子の方が肯定的回答の割合が高い。

②どんな時に体育が楽しいと感じますか。（児童生徒質問紙の結果より）



- ・体育が楽しくない児童生徒も「できなかったことができるようになったとき」、「友達と交流し、協力できたとき」は楽しいと感じる。

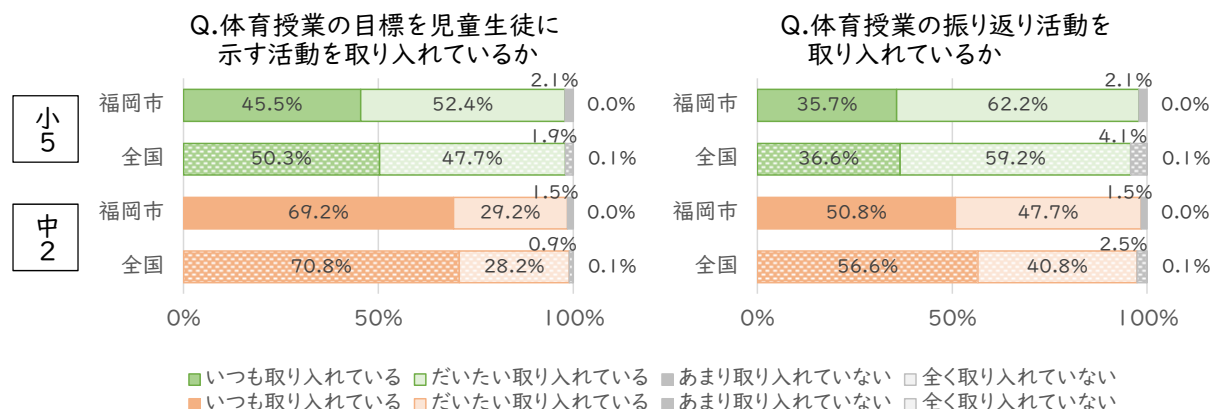
③体育の授業で、どんな時にできたり、わかったりしますか。



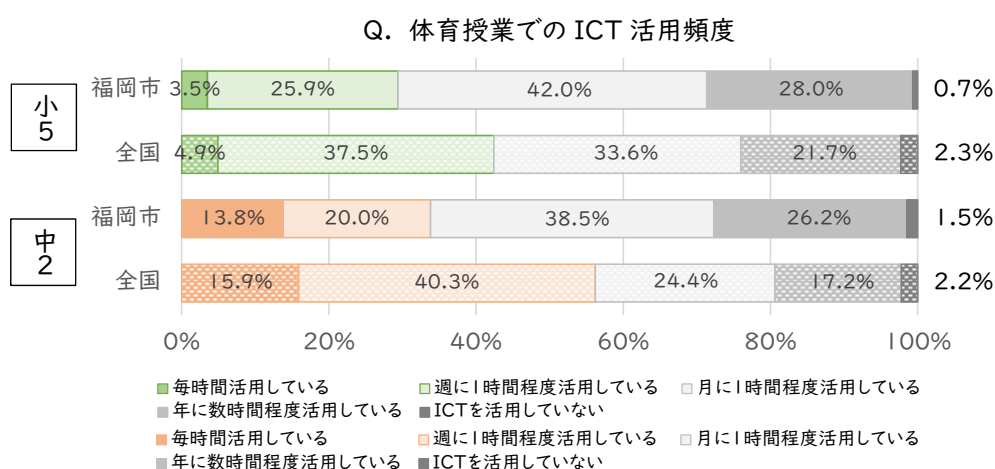
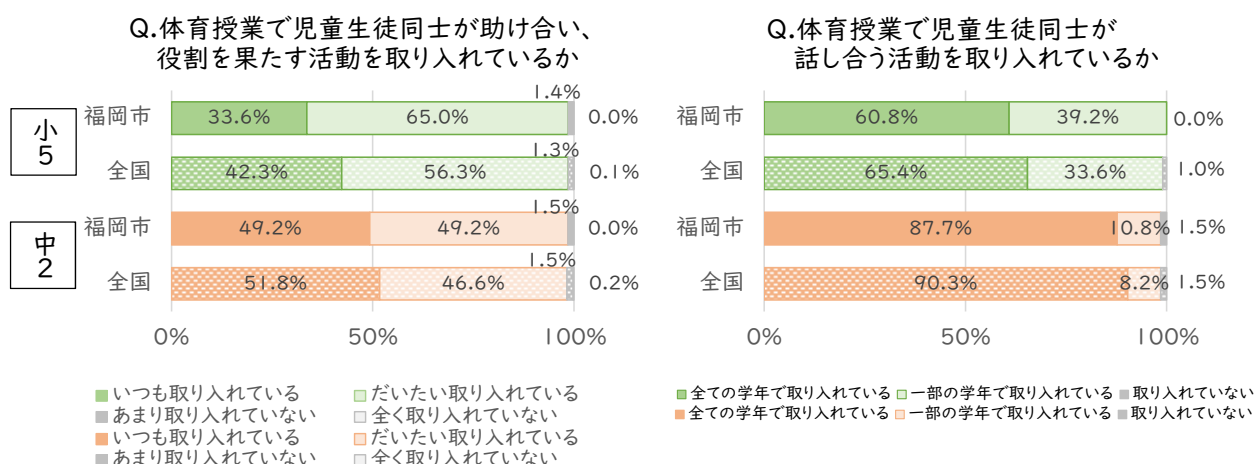
- ・体育が楽しくない児童生徒では「友達と助け合ったり、教え合ったりする学習」の割合が一番高い。
- ・児童生徒が体育の授業を楽しんでいるためには、できるようになる成功体験や子どもが主体的に仲間と交流できることが必要と考えられる。

(4) 教員の体育の授業に対する考え方について

①体育授業にどのようなものを取り入れているか。(学校質問紙の結果より)



- ・肯定的回答は全国平均と同程度であり、「全く取り入れていない」割合は0%である。



Q.体育の授業で大切にしていること(上位3つ)

校種	国・市	体を動かすことの楽しさを実感させること	技や動きができるようになること	仲間と協力して課題を解決させること	苦手意識を持たせないこと	運動量を確保すること	学習したことを実生活に生かせるようにすること	動きのポイントなどの知識を理解させること	自ら工夫して練習やゲームが出来るようにすること	技能の程度、障害の有無に係わらず、共に学習させること	運動領域と保健領域の関連を図ること	その他
小学校	福岡市	91.6%	25.9%	70.6%	11.9%	53.8%	2.8%	0.077	23.1%	9.8%	0.0%	0.0%
	全国	87.4%	30.4%	54.8%	20.3%	60.7%	3.6%	0.118	17.2%	10.8%	1.1%	0.6%
中学校	福岡市	84.6%	18.5%	70.8%	10.8%	50.8%	16.9%	0.092	12.3%	15.4%	6.2%	1.5%
	全国	82.2%	24.6%	62.5%	17.0%	46.5%	12.3%	0.144	15.9%	16.6%	5.4%	1.0%

- ・教員が体育の授業で大切にしている割合が高いものは、小中ともに「体を動かすことの楽しさを実感させること」と「仲間と協力して課題解決させること」であり、その他、小学校で高いのは、「自ら工夫して練習やゲームが出来るようにすること」、中学校では、「運動量を確保すること」である。
- ・児童生徒が体育の授業を楽しんでいるためには、主体的に仲間と交流できることが必要であったが、教員は「仲間と協力して課題を解決させる」取組みに重点を入れており、児童生徒の認識と教員の取組みが一致している。
- ・体育の授業が楽しいと感じるもう一つの要因として、「できるようになる成功体験」があったが、「技や動きができるようになること」の割合が全国平均より低いため、ICTの活用なども含め、さらなる教員の指導力向上が必要である。

(4) 今後の取組みの方向性

- 豊かなスポーツライフを実現させるために、児童生徒に運動の楽しさやできるようになる喜びを味わわせるために、子どもを主体とした学びを実現し、運動習慣の形成や体力向上につなげていく。

(5) 今後の具体的な取組み

①各学校の取組み

- ・体育の授業において、子どもを主体とした学びを展開し、全ての児童生徒に運動の多様な楽しみ方や運動ができる喜び味わわせる取組みを学校全体で共有し実施。
- ・体育の授業以外で、子どもが主体となって体育的行事を企画するなど、体力向上や運動の楽しさを実感できる取組みを計画的に実施。

②教育委員会の取組み

○子ども主体の学びの実現に向けた授業改善に資する研修会の実施

- ・学校体育代表者連絡会
子ども主体の学びを実現するための体育科学習における授業改善のポイントや安全確保、新体力テストの説明などを実施する。
- ・体力向上のための指導者研修
子どもの日常的な運動の習慣化を促す具体的な取組みについて、専門家を招聘し、指導者の実技研修を実施する。
- ・体力向上のための連絡会
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の説明やスポーツ系大学の教授などによる講演などにより、今後の体力向上の取組みの方向性を共通理解し、各学校の実効性ある取組み及び本市一体となった体力向上の取組みの推進に資する。

○外部人材の活用

- ・小学校体育科学習実技指導員派遣の拡充
小学校体育科学習における実技指導に関して、専門性の高い指導員を派遣し、児童の運動技能の向上に加え、運動・スポーツに対する肯定的な態度の育成と小学校教員の指導方法の普及をねらいとする。
- ・地元の資源を活用した体験的な教育プログラムの実施
子どもに豊かな体験活動を充実させるために、プロスポーツチームや企業がもつ専門性を生かした出前授業を実施する。

○運動習慣形成、体力向上の取組み普及

- ・体力向上推進委員会の運営
これまでの体力向上推進委員会で行ってきた取組や今後の体力向上の方向性などを、体力向上推進委員会から発信することで、子どもの運動習慣の形成や体力向上を図る。